

PADDCは、「うつ病と抑うつ傾向」の早期発見を目的とする「投映法心理アセスメント」です。

特徴は

- A) 質問紙法の欠点とされる「受検者の意図的操作性回答による不正確さ」がなく、信頼性が高いことです。
- B) マニュアルを熟読するか、3時間程度の使い方研修を受ければ「心理学などの基礎知識がない職員など、誰にでも簡単に施行できるツール」です。

具体的には

- ① 受検者に、簡単な鉛筆画を依頼します。
- ② 実施者はUSBに収納されているPADDCソフトをパソコンなどで開き、マニュアルの説明による客観的な基準に従って鉛筆画の特徴をチェックし、パソコン画面のチェック欄□にを入力します。
- ③ 受検者にパソコン画面で17色の色彩を提示し、15の質問に一番近いイメージ色の選択を依頼します。
- ④ パソコン画面が「設問は終わりです」になったら、ダブルクリックをします。
- ⑤ PADDCソフト内で自動集計され、評価が6段階で示されます。
……といった簡単に行える投映法心理アセスメント・ツールです。
- ⑥ 受検者の標準的な必要施行時間は、10分以内です。
- ⑦ また評価結果の信頼性は80%以上です。

※：評価結果の信頼性に関するデータにつきましては、PADDCマニュアルの基礎資料をご参照ください。

PADDCの使い方

PADDCは職業セラピストの方々、企業や学校などの相談窓口担当者の方々に役立つ「個人相談用心理アセスメント(心理テスト)版」と、職員や学生生徒のうつ病予防に役立つ「スクリーニング用心理アセスメント(心理テスト)版」の2種類があります。

インターネット・サポート

PADDC使用上の疑問は、インターネットによるアドバイスが受けられますので安心です。

※：PADDC使用者に限ります。



お問い合わせ
インテックスインコーポレイテッド株式会社
メンタルヘルス事業部 PADDC センター
東京都中央区八丁堀4-12-20第一SSビル9階
E-mail : paddc@creative-therapy.jp

PADDC

Projective Assessment
for Depression
by Drawing and Color

うつ病と抑うつ傾向の 投映法心理アセスメント

~簡単な鉛筆画と色彩選択による~

セラピスト・カウンセラー
企業・健康保険組合・学校用
推薦：一般社団法人 日本創作療法学会

質問紙法の問題点

従来の「うつ病や抑うつ傾向の心理アセスメント（心理テスト）」は、例えば「自分は生きる価値のない人間のように感じる」といった質問に「ある」、「ときどきある」、「あまりない」、「まったくない」などの回答欄から該当する欄に○印をつけるか☑を入力して答える方法によるものでした。

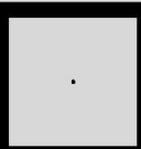
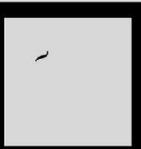
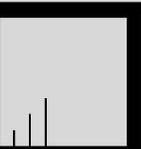
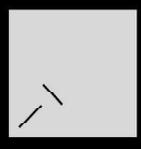
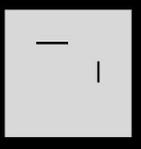
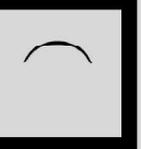
そのため受検者は回答を選ぶ段階で結果が予想でき、事情次第では意図的に期待通りの結果を導くことが可能でした。

PADDC - WZT

実施日： 年 月 日 勤務先（学校名）： _____

氏名： _____ 性別： _____ 生年月日： 年 月 日（ 歳） _____

A：鉛筆で、全ての枠に何か描いてください。

| | | | |
|---|--|--|--|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
|  |  |  |  |
| 5 | 6 | 7 | 8 |
|  |  |  |  |

B：全て描き終わったら、枠番号の右側に、何を描いたのか記入してください。

| | |
|----|----|
| 1. | 2. |
| 3. | 4. |
| 6. | 6. |
| 7. | 8. |

C：どちらかの（ ）内に○印を入れてください。

（ ） 枠の番号通りに描いた。

（ ） 枠の番号にとらわれず、自由に描いた。

PADDCがお願いする鉛筆画

PADDCが受検者にお願いする鉛筆画は、左下の「PADDC - WZT」用紙の中にある、8つの枠だけという本当に簡単な描画です。

簡単な鉛筆画でも、どのような表現がうつ病や抑うつ傾向のサインにつながりやすいのか、受検者には全く予想がつきません。

従って、受検者の意図的操作が防止されます。



PADDCがお願いする色彩選び

PADDCが受検者にお願いする17色からの色彩選びは、上の表の「色彩8分音符」の通りです。

PADDCがお願いする質問

PADDCが受検者にお願いする質問は、「色彩8分音符」下段にある『今の気分に一番近いイメージの色は、どの色ですか？』といったような、気分と色彩との関係について伺う15問の質問です。どのような質問にどのような色彩を選ぶとうつ病や抑うつ傾向のサインにつながりやすいのか、受検者には全く予想がつきません。

従って、受検者の意図的操作が防止されます。

PADDC実施者が求められること

PADDC - WZT 描画評価

- ☐ A. 6枠以上がスケッチのような写実的表現である
- ☐ B. 6枠以上が何を描いたか説明できる表現である
- ☐ C. 線画で枠番号順に表現している
- ☐ D. 第3枠の右上に表現が無い
- ☐ E. 3筆以下の表現が2枠から3枠ある
- ☐ F. 3筆以下の表現が4枠以上ある
- ☐ G. 4筆以下の鏡面配置表現が2枠から3枠ある。

PADDCはUSB収納のソフトが集計から評価まで自動的に行いますので、実施者が求められることはマニュアルに従って、「PADDC - WZT」の描画の客観的特徴をチェックし、パソコン画面のチェック欄☐に☑を入力することになります。

PADDCが表示する評価サイン

PADDCが表示する評価サインは、上から標準、抑うつ傾向の可能性のある、うつ病の可能性のあるです。各色2段階表示の、6段階評価です。

